

令和4年度 事業計画



岡山理科大学附属中学校



優れた教育を提供し、学んでいる子ども達の学力をさらに伸ばし、難関大学・難関高等学校入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成します。



経済や社会の構造が変化し、情報、文化のグローバル化が進むとともに、科学技術がめざましく進展する現在の社会では、これまでの価値観、経験、習慣や常識だけを頼りにしては対処できない事態が多数生じます。新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行では、そのような事態を直接経験することになりました。このような状況では、社会の様々な分野において、その導き手となって課題解決を行い、未来に向かい発展させることができる人材を育てていくことが、喫緊の課題になっています。

「社会に貢献できる人材の養成」を建学の理念とする加計学園では、今般、傘下の全ての教育組織が一体となって、これからの社会を支える人材を輩出していくための方針を、学園のあるべき将来像として「加計学園ビジョン 2026」を定めました。この学園ビジョンを基に、本校においても今後5年間のビジョンを策定しましたが、このビジョンを着実に達成していくため、本年度の事業として、以下の項目に取り組みます。

I. 教育の推進

- 1) 学力を定着・向上させるための対応
- 2) 自らを律する人格の形成と基本的な学習生活習慣の確立

II. 生徒の支援

- 1) 生徒の多様な資質や希望に応える進学ルート設計
- 2) 生徒支援・指導体制の充実

III. 地域社会との連携

IV. 国際化の推進

V. DXの推進

VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

岡山理科大学附属中学校 校長 田原 誠

I. 教育の推進

1. 学力の定着・向上についての目標

中期計画	事業計画
<p>[1] 学力の定着・向上についての計画</p> <p>1) 進路志望への対応</p> <p>進路志望に対応したクラスやカリキュラム、さらに教育内容の最適化を進めて生徒の志望に応じた指導に取り組む。</p>	<p>[1] クラス編成と教育目標</p> <p>多様な進路志望に対応できる SR(Special Route) コース*編成により、深い学びを通してしっかりとした学力を身につけ、自分の進路をしっかりと考えて選択できる力の養成に努めています。</p> <p>【SR コース*：難関県立高校等をめざす3年間ルート、附属高校で学び国公立や難関私立大学をめざす6年間ルート、附属高校から岡山理科大学等の関連校に進学する10年間コースを示す。】</p> <p>[2] 共通の教育目標</p> <p>少人数教育を生かして、生徒の学力の向上を進めます。さらに、国際的な視野を持ちながら、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できる力を身につけるよう指導します。</p>
<p>2) 思考力・表現力などの養成</p> <p>論理的な思考力や表現力を育む授業をカリキュラムに取り入れる。また、一人1台端末の機能を十分活用する授業を実施する。</p>	<p>[3] カリキュラム</p> <p>中学3年生の段階で難関公立高校や難関私立高校への進学を目指す生徒には、進学に必要な学力を養成します。また、高校で求められる、自分の考えをわかりやすく説明できる力の養成に努めます。中高一貫コースで学んできた生徒には、基礎学力の充実を基に、国公立大学や難関私立大学への進学に必要な学力を育成します。また、探求活動を推進し、科学的・論理的な思考能力を高めます。</p> <p>[4] 論理力向上のための取り組み</p> <p>国語授業の中で「論理エンジン」を副教材として取り扱い、論理的な文章構成の把握や文章作成の能力を養います。また「Literas 論理言語力検定」や「作文検定」を受検し、論理的思考力・表現力の定着度を測ります。</p> <p>[5] GIGA スクール構想への対応</p> <p>昨年度、校内の高速インターネット環境の整備と合わせて導入した生徒一人一台の端末を活用して、プログラミング等のICT教育や対話型の学びの実践に取り組めます。</p>
<p>3) 授業改善のための教員の教える力の改善</p> <p>授業改善のために必要な教員研修を実施する。</p>	<p>[6] 授業改善</p> <p>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業やGIGA スクール構想などのICTを活用した授業方法、生徒の評価方法などの教職員研修会を定期的実施します。さらに、「Classi」(ベネッセ)を利用して、教員間の情報共有を図ります。</p> <p>また、他者を尊重しながら自分の考えを表し、深める力や論理的に考えることが出来る力の養成に努めるために、岡山理科大学附属高等学校が取り組んでいる国際バカロレアの教育手法を取り入れます。</p> <p>さらに、教員の教育力強化のため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176と連携を継続します。</p>

中期計画	事業計画
	<p>[7] 教科会議・学年団会議の強化・連携</p> <p>各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進し情報を共有することで、効率的な生徒の学力向上を図ります。</p> <p>また、学年団会議ならびに中学校担任会議において、生徒の情報を共有することで、的確な指導を行います。</p>

2. 人格の形成と学習生活習慣の確立の目標

中期計画	事業計画								
<p>[2] 人格の形成と学習生活習慣の確立の計画</p> <p>学校行事などの機会を通して、校訓や教育方針の積極的な指導を行う。また、服装と挨拶の励行を指導する。</p>	<p>[8] 校訓</p> <p>私たち教職員一同は、加計学園建学の理念の下、「立志三風」を掲げ、「生活三則」の指導に一丸となって取り組んでいきます。</p> <table border="0"> <tr> <td>立志三風</td> <td>生活三則</td> </tr> <tr> <td>一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）</td> <td>一、場を清めましょう</td> </tr> <tr> <td>一、振気・勉学の良風を尚ぶ（努力）</td> <td>一、時を守りましょう</td> </tr> <tr> <td>一、忠恕・爽凜の美風を養う（友愛）</td> <td>一、礼を正しましょう</td> </tr> </table>	立志三風	生活三則	一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）	一、場を清めましょう	一、振気・勉学の良風を尚ぶ（努力）	一、時を守りましょう	一、忠恕・爽凜の美風を養う（友愛）	一、礼を正しましょう
立志三風	生活三則								
一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）	一、場を清めましょう								
一、振気・勉学の良風を尚ぶ（努力）	一、時を守りましょう								
一、忠恕・爽凜の美風を養う（友愛）	一、礼を正しましょう								
	<p>[9] 服装指導の実施</p> <p>モットーは「凜とした爽やかさ」です。規定のものに限らず全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしを指導します。</p>								
	<p>[10] 挨拶の励行</p> <p>朝のあいさつ運動や職場体験などを通し、気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるように指導します。この指導が面接での自己表現力に繋がるように努力します。</p>								
	<p>[11] 共通の教育目標</p> <p>基本的な生活習慣を確立して、集団の中で協力しながら生徒が主体的に活動できる力を身につけるよう指導します。</p>								
	<p>[12] 将来につながるリーダーの育成</p> <p>体育祭、爽凜祭（学習発表会）、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事は実行委員の生徒が主体的に運営します。生徒はこのような自主活動の中で企画力、実践力、思考力などを高め、それぞれの人間形成力を育みます。</p>								

II. 生徒の支援

1. 生徒の多様な資質や志望に応えるための目標

中期計画	事業計画
<p>[3] 生徒の多様な志望に応えるための計画</p> <p>生徒の志望に沿って、体系的に学習し、体験する機会を提供し、各自のキャリア実現に求められる学力や能力を育成する。</p>	<p>[13] 学習計画の指導</p> <p>「学習の記録」にその日に取り組む学習計画を書き、できたことをチェックする習慣が身につくよう、指導します。また、「自分史プロジェクト」と題して、さまざまな活動についての振り返りをまとめ、ポートフォリオが作成できるよう指導します。</p>

2. 多様な生徒の支援に関する目標

中期計画	事業計画
[4] 多様な生徒の支援に関する計画 健康管理や学校生活及び家庭生活における具体的な相談や指導に対応するため、生活支援体制を更に充実させる。	[14] 家庭、地域社会との協力・連携強化 毎日の生活記録ノートの確認などを通じ、生徒の学校生活や地域および家庭での生活などをサポートします。
	[15] 教育相談室・保健室との連携 思春期である中学生期を心身ともに健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化します。

Ⅲ. 地域社会との連携

1. 良好な社会的関係構築に関する目標

中期計画	事業計画
[5] 良好な社会的関係構築に関する計画 登下校時の中学生としてのマナー順守を徹底する。	[16] 家庭、地域社会との協力・連携強化 中学生専用の定期バスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施、毎日の生活記録ノートの確認などを通じ、生徒の地域および家庭との良好な関係を構築します。

2. 地域教育の目標

中期計画	事業計画
[6] 地域教育の計画 教育活動やマナー指導を通して、地域社会との関りの重要性を生徒に説明する。	[17] 社会規範育成への取組 外部講師による講演などを活用し、規範意識の啓蒙に努めます。学校独自の規則だけでなく、アクティブラーニングやプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に適した言動が取れるよう、平日頃から生徒への指導や話し合いを行います。
	[18] 情報教育 生徒のインターネットリテラシーの現状を踏まえ、情報モラルの向上に努めます。その一環として岡山県警察本部より講師を招き、「インターネットモラル教育」の講演を実施します。また、SNS等個人情報の適切な扱いを指導します。
	[19] 塾との関係の強化 中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな情報発信をします。 従来の塾訪問に加えて、各教職員がそれぞれの通勤経路の付近の塾を訪問する「通勤経路型塾訪問」を実施し、それぞれの塾に本校教職員の担当を固定し、相当数の塾訪問を計画し、円滑に実施します。 さらに、入試結果を踏まえた塾対象入試説明会を6月に実施予定です。

IV. 国際化の推進

1. 国際力向上の目標

中期計画	事業計画
<p>[7] 国際力向上の計画</p> <p>全クラスで英会話授業を実施し、英検やケンブリッジ英検での取得目標を学年ごとに提示して、英語力の向上を進める。また、附属高校で実施されている国際バカロレア教育を取り入れた活動を実施する。</p>	<p>[20] 英会話</p> <p>英会話を1～3年生の全クラスで実施し、自ら積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養います。また、4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応したケンブリッジ大学英語検定機構が発刊するコースブック・英語教材を使用します。</p>
	<p>[21] 実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施</p> <p>(1) 1年在籍生徒の9割以上が5級以上の取得を目標とします。</p> <p>(2) 2年在籍生徒の8割以上が4級以上の取得を目標とします。</p> <p>(3) 3年在籍生徒の6割以上が3級以上の取得を目標とします。</p> <p>(4) 教員が生徒に対し、積極的に受験指導を行います。</p>
	<p>[22] TOEFL Primary Test を1・2年生に実施・希望者にケンブリッジKey Test 実施</p> <p>(1) 1年修了時にはCEFRのA2レベルをクリアすることを目標とします。</p> <p>(2) 2年修了時にはCEFRのB1レベルをクリアすることを目標とします。</p> <p>(3) CEFRのB1レベルをクリアした生徒にはTOEFL Junior Standardの受験を勧めます。</p>
	<p>[23] 国際バカロレア教育の活用</p> <p>附属高等学校で実施されている国際バカロレア教育の手法を取り入れ、課題に対して論理的・批判的に考えて研究する取り組みを設けます。</p>

V. DXの推進

1. ICT活用に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[8] ICT活用に関する計画</p> <p>ICT活用推進のためのFD実施及び各種証明書の申請手続きのweb化を図る。</p>	<p>[24] 教職員研修</p> <p>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業やGIGAスクール構想などのICTを活用した授業方法、評価方法などの教職員研修会を定期的に行います。</p>
	<p>[25] 申請手続きのweb化</p> <p>各種証明書の申請手続きweb化のための各種方法を調査し、比較検証します。</p>

VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

1. 学校運営の改善及び効率化に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[9] 学校運営の改善及び効率化に関する計画</p> <p>校長がリーダーシップを発揮できる環境を充実させるため組織及び運営の改善を継続的・恒常的に実施する。</p>	<p>[26] 学校運営会議の強化</p> <p>校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織する運営会議において、学校全体の運営方針に基づき、学校運営が円滑かつ革新的に進むよう、学校業務の企画立案および連絡調整を強化します。</p>

2. 教育の質保証に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[10] 教育の質保証に関する計画</p> <p>アクティブラーニングの導入や IB 教育の理念を取り入れた授業を実施することにより効果的な教育方法・教育内容を充実させる。</p>	<p>[27] 授業改善 ([6] 再掲)</p> <p>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業や GIGA スクール構想など ICT を利用した授業方法、評価方法などの教職員研修会を定期的の実施します。さらに、「Classi」(ベネッセ)を利用して、教員間の情報共有を図ります。</p>
	<p>[28] 国際バカロレア教育の活用</p> <p>附属高等学校で実施されている国際バカロレア教育の手法を取り入れ、課題に対して論理的・批判的に考えて研究する取り組みを設けます。</p>

3. 内部質保証に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[11] 内部質保証に関する計画</p> <p>内部質保証を充実させ、組織運営の改善に活用するため、的確な評価指標を設定し、適正な個人評価(教員活動評価)を実施する。</p>	<p>[29] 生徒による授業評価・教員自身による授業評価</p> <p>確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのかを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、教員自らが自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に活かします。</p>
	<p>[30] 生徒・保護者・第三者による学校評価</p> <p>学校教育活動が教育目標の実現のために適切に行われているかどうかについて、生徒・保護者ならびに第三者による外部評価をいただき、それを基に学校教育活動のさらなる改善を図ります。</p>

4. 財政基盤の強化に関する目標

中期計画	事業計画
[12] 財政基盤の強化に関する計画 経費を抑制するため財務情報等を活用し、財務分析を行うことにより業務の現状を検証し資源配分の重点化や経費削減など、より一層の効率化を実現する。	[31] 財政基盤の強化 学校運営を行うために、定員の確保を最優先課題として受験生のニーズに沿った募集活動を展開するとともに、体力のある組織を構築するために、改革と削減に加えて選択と集中により人件費及び教育研究経費、管理経費の全体適正に 取り組みます。

主な行事予定	
4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月14日	健康診断
4月16日	授業参観
9月7日～9日	修学旅行
9月23日	体育祭（岡山ドーム）
10月29日	爽凜祭（学習発表会）
12月15日	百人一首大会
2月3日、4日	校外活動
3月11日	卒業式
3月17日	終業式

学生数・教職員数

■在籍生徒数

（令和4年5月1日現在）

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	73	240	194

（単位：人）

■教職員数

（令和4年5月1日現在）

校長	教頭	教諭	教員 計
1※	1	10	11

※校長は附属高等学校と兼任

事務職員
1

（単位：人）

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和4年度 予算額	令和3年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	105,647	93,716
		経常費等補助金	63,685	60,582
		その他収入	5,305	6,346
	計	174,637	160,644	
	支出	人件費	123,458	124,711
教育研究経費		37,590	39,478	
管理経費		13,342	11,228	
その他支出		0	0	
計	174,390	175,417		
教育活動収支差額			247	△ 14,772
教活外	収入	受取利息等	0	0
	支出	借入金利息等	0	0
	教育活動収支差額		0	0
経常収支差額			247	△ 14,772
特別	収入	資産売却差額等	0	4,117
	支出	資産処分差額等	0	0
	特別収支差額		0	4,117
基本金組入前収支差額			247	△ 10,655
基本金組入額合計			△ 200	△ 34
当年度収支差額			47	△ 10,689

■施設設備整備計画

令和4年度においては施設改修、大型設備の設置予定なし。

■財務改善に向けた取組

今後、岡山県内の12歳人口が急速に減少することを踏まえ、安定的な学校運営を行うためには定員の確保が最優先課題であり、受験生のニーズに沿った募集活動はもとより、在校生の満足度を上げる必要があると考えます。募集活動においてはオープンスクールや入試だけでなく、学校の情報をホームページ、FacebookやInstagramでも、迅速に幅広く提供します。さらに中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな情報発信をします。在校生について教育活動はもとより思春期である中学生期を心身ともに健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化します。